

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記号)】			
事業所番号	4270201702		
法人名	特定非営利活動法人 おりおせ福祉の森		
事業所名	グループホーム あっとホーム黒髪		
所在地	長崎県佐世保市黒髪町6515-27		
自己評価作成日	令和6年1月10日	評価結果市町村受理日	令和6年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和6年2月17日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念に基づいたケアを日々目指しています。迷ったときは「自分の親だったら・・・」と考えてケアをしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの近くには小学校や公園があり、長閑で閑静な住宅街の中にある。ホーム前の公道は、子ども達の登下校のルートとなっており、日常の挨拶や声掛けなど児童の見守り的な役割を果たし交流する場面がある。昨年は看取りケアを実施され、ホームの理念である「利用者の人格人権を尊重し、限りなく家庭的な雰囲気の中で、ここで生活を共にする人たちがひとつの家族として安心して生活できるようにそれぞれに合った介護サービスを提供することにより認知症症状が改善できるように援助する。」の実践に繋げた。「自分の親だったら・・・」どのように支援するかを全職員が意識し、一丸となって入居者・家族の意向をくみ取り、その方の人生の寄り添う看取りケアに努めており、迷った際は常に理念に立ち返り本人本位のケアの実践に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別紙2-2)

## 自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、スタッフで理念の唱和をし実践に繋げている。	ホームでは支援に迷ったときは「自分の親だったら、家族だったら…」をいつも考え、理念に基づいたケアを振り返り、毎朝のミーティングで唱和している。ホームの玄関を入ると毛筆で書かれた理念が掲げてあり、目にするにより再確認している。ホームの理念・方針を見て入職することを決めた職員もあり、ホームの名称でもある「あっとホーム」な支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	玄関で日向ぼっこしている時に小学生と会話を楽しく頂く支援を時々している。	ホームは地域の自治会、老人会などに入会していない。コロナ禍前は近くの小学校の児童と手紙のやり取りを行うなどの交流をしていたが、ホームでコロナ感染症によるクラスターが発生したことにより、外部との交流を自粛している。今後、インフルエンザや感染状況を見極めながら地域との交流を再開する予定である。	住宅街の中にあるホームであり、立地環境を踏まえ、例えば有事に備えて近隣の方や自治会との協力関係を築いていけるよう地域への声掛けや、ホーム自らの情報発信し地域交流を深められるよう取り組むことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方々に認知症の理解をして頂けるように発信をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では意見交換をしサービス向上に活かしている。	運営推進会議はコロナ禍においては書面会議で開催していたが、現在は対面により年6回開催している。構成委員として管理者、主任職員、家族代表2名、入居者1名、地域住民代表1名、行政担当者の地域包括支援センター職員1名が参加している。会議では近況報告、ヒヤリハット報告などを分かりやすくまとめ、意見交換がなされている。	会議録に記載されている意見交換の内容に発言者名が記載されていない。どの委員が発言された内容なのかを明確にして議事録に残すことが望ましい。また、会議に参加していない家族には郵送やホーム内での閲覧等によりいつでも開示できるよう工夫することが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かわからない事があったら連絡をし協力関係を築くよう取り組んでいる。	コロナ感染によるクラスターが発生した際、市の担当者や保健所担当者が親身になって相談にのってもらったこともあり、心強くクラスターを乗り越えることができた。職員のケアに対する支えにもなり、協力関係を築けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年2回、身体拘束に関する研修を実施している。身体拘束の指針、マニュアルを整備している。直近の研修では魔の3つのロック(スピーチロック・フィジカルロック・ドラッグロック)について開催し、研修報告と共に職員の考えや思いなどを汲み取り、ケアに活かすよう努めている。外部評価調査日現在、身体拘束は行っていない。	令和3年度介護報酬改定に係る基準等の変更に伴い、「虐待防止のための措置に関する事項」を運営規程に明記し、職員や家族に周知し取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の会議または毎日のミーティングで話し合い見過ごされる事がないように注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が持てていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に必ず説明する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・家族様の面会時など尋ねている。そしてそれを反映している。	家族からの連絡事項や要望などがあった場合はホームのタブレットに記入し、職員間で共有している。意思疎通が困難な方には職員が間に入り、トラブルがないよう配慮している。理念にもある家庭的な雰囲気の中で安心して生活できるように入居者本位のケアを常に心掛け支援に努めている。本人、家族の意向を踏まえ看取りケアも行っている。	第三者評価の受審状況を重要事項として家族等へ説明することが求められており、今後、重要事項説明書において第三者(外部)評価の受審状況が分かるように第三者(外部)評価実施の有無、評価実施日、評価機関名、評価結果の開示状況を記載するとともに、受審時には家族アンケートを実施して家族の意見を汲み取る機会となる旨を説明することを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングで意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	管理者は職員のケアに対する意見・要望はもちろん職員の個人的な事に対しても相談できるような信頼関係の構築に努めている。職員一丸となって入居者の支援ができるように、毎日のミーティングやタブレットによる情報交換により共有し、ケアに反映している。職員個々に応じた働き方を支援し、働きやすい職場環境の整備に努め、職場主任を中心にチームワークもとれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度の勉強会などでわからない事意見を出し合いながらトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催である研修に参加している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接をし家族様、本人様の状況等を把握し安心して頂けるように努めている。		



自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前に家族様の要望などを聞きまず関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話しをし必要としている支援を見極め他のサービスを含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に基づいて家庭的な雰囲気を常に大切にしている。利用者様ひとりひとりの暮らしを共にしている関係づくりに努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時にはスタッフが間に入り会話を楽しんでもらうよう気がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の写真を見せて説明したり、面会時撮影した写真を見せてあらためてご家族を理解してもらおう機会をつくっている。	入居者の知人がホームへ来訪したり、新聞のお悔やみ欄の情報より入居者の知人が亡くなったことを知り、家族と相談し香典を職員が代理で渡すなど関係が途切れないよう支援している。以前努めていた勤務先まで行きたいとの要望に応え、勤務先の前を車で通るなど本人の要望を汲み取りながら支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の間にスタッフが入り関係を深める支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りで亡くなった方のご家族に、その後も連絡をとっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフの都合ではなく、ご本人の意向を把握するよう努めている。意思疎通が困難な方でもご家族と話し合って検討している。	食事の摂取が難しくなってきた入居者には、本人の状態や意向を確認し、食事形態を変更している。遠方の家族に近況報告する際には本人の現在の状態を動画を撮って送るなど、入居者及び家族が安心して生活を送り、不安を取り除く支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族やケアマネなどに生活歴や嗜好調査を確認し、ご本人との会話でも把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティングで全利用者様の状態を共有し、一日の過ごし方など現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、介護職で話し合い意見やアイデアを出し作成している。	管理者が介護計画書を作成している。また日頃は介護業務にも従事しているので入居者の状態変化に柔軟な対応ができています。3か月に1度、介護計画を見直し、毎月のモニタリングと、担当職員を配置して入居者、家族の要望を汲み取り、計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットを使用し、会話も含め記録できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が外出の希望をされたため、ご本人の体調等を確認し日時を決め実行してもらった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染予防もあり、地域との協働はあまりできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の訪問診療と、歯科医の随時訪問診療を行っている。家族が希望する医療期間を尊重している。	入居後もこれまでの本人のかかりつけ医を継続して受診できるよう支援している。協力医による週1回の訪問診療を実施している。訪問診療日以外または他の病院受診には家族対応を基本としているが、介護タクシーを利用し、職員付き添いのものと支援する場合もある。受診の際は、ホームのタブレットにより情報提供が円滑に行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医の医療機関の看護師と連携をとって情報共有を努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供のため看護サマリーの提供を行っている。入院後も情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医より終末期ケアが必要と言われた時には担当学会議を行い主治医の意見を家族に説明し、家族の意向も十分に考慮し事業所ができることを書面で説明して今後の方針を決めている。	昨年3件の看取りケアを実施している。看取りに向けた職員研修を実施し、職種によってそれぞれの立場で看取りを支援している。夜間に急変した場合のマニュアルも整備し、看取りケアの指針に基づいて人生の最期に寄り添う介護を実践している。家族は終末期、面会時間に関係なく来所することができ、ホームの配慮に感謝されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々のミーティングや月1回の会議時にその都度テーマを決め勉強をしている。実技でも実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災の訓練に関しては定期的に行っているが、地震・水害を想定とした訓練はできていない。	消防計画に基づき、昼夜間を想定した訓練を年2回実施している。夜間を想定した訓練では参加した職員が入居者を車椅子にて避難誘導する訓練を実施している。建物の構造上、一階の入居者は二階の玄関からの避難誘導になるが、消防署の指導のもと二階までの誘導においてエレベーターの使用が困難とのことで、建物の外に出すことを優先するよう指示を受けている。	自然災害に関するBCP(業務継続計画)の策定が未整備の状況にある。今後、BCPの策定と共にBCPに沿った研修、訓練(シミュレーション)の実施を期待する。



自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの人格を損傷し、ニックネームや友達言葉を使わないように、日々のミーティングで話し合い周知している。	日々のミーティングや接遇マナーなど、人格を尊重した声かけを支援している。若い世代の職員による入居者との関わりに主任が気がけて誇りやプライバシーを損ねないよう日頃の業務の中で気づいた際に指導している。スピーチロックに関する研修も実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を通して利用者様の気持ちや表情をくみとり発言できやすいように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のミーティングでその日の状態や様子を確認し希望に沿うよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後など以前使用されていた化粧水や椿油などを使いたいという要望に答え支援している。また洋服選びも季節に応じて好みのものを選ばれるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は外部の食事宅配業者を毎日利用していたが、利用者様の好みに対応できるよう、手作りの食事を提供できるよう職員を配置して週4～5日は手作りで提供している。	調理の専任職員を配置している。ホームで手作りの食事を提供している。尚、調理職員の休曜日には外部業者へ委託している。食事形態は入居者個々の状態にあった食事を提供している。低栄養の入居者には栄養補助食品(エンシュア、メイバランス)などを利用し、健康管理に努めている。アレルギーや健康上の理由で代替食品を提供する場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	タブレットを活用し、水分量などを計算・把握し不足している人に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前に口腔体操とうがいを行っている。食後は残渣物が残っていないか確認しながら口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりのADLに合わせた排泄介助を行っている。夜間はおむつ対応でも日中は施設トイレを利用するなどしている。	タブレットで入居者の排泄状況を管理し、職員間で共有している。入居者個々の状態に沿った声かけ誘導にて排泄の失敗を無くすよう努めている。リハビリパンツやおむつの方もできる限り日中はトイレで排泄してもらう支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維のある食事や手作りおやつを提供し、健康体操に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は火曜・金曜が入浴日としているが、ご本人の希望やタイミングに合わせて柔軟に変更・追加し支援している。	週2回(火曜日・金曜日)の入浴を基本として支援しているが、本人より希望があればいつでも入浴を支援している。季節の菖蒲湯や柚子湯など楽しんでもらえるよう工夫している。脱衣所、浴槽の温度にも配慮し安全に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況にあわせソファや自室などに誘導し休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様が服用している薬の情報をタブレットで確認できるようにしており、用法・用量、副作用を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様ひとりひとりに合わせた役割(茶碗洗い、掃除、花の水やり、貼り絵など)を行ってもらい張り合いをもってもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	去年10月にインフルエンザ感染が複数出てしまい、その後冬場の気温低下で外出ができていないが、気候が暖かくなってからじょじょに外出を増やしていく計画をしている。	コロナ禍により現在は外出はできてない。コロナやインフルエンザなど感染対策に十分配慮し、気候が良くなったら外出支援する意向である。近くの公園や野球観戦、烏帽子岳、イオンなど入居者の要望に応じた外出を計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ドアの施錠ができない事もあり貴重品の持ち込みをご遠慮させていただいているため、現在利用者様本人の所持はされていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	夏の暑中見舞いや年賀状などを送る支援をしている。電話も希望されるときにしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって飾り物を変えて季節感を感じてもらえる工夫をしている。リビングにはみんなで作成した季節にちなんだ貼り絵などを飾っている。	玄関には職員のアイデアで季節の花や装飾品を飾り、家庭的な雰囲気が感じられる。時季に応じて今は「鬼は外・福は内」と毛筆で書かれた色紙が飾られている。97歳の入居者のぬりえや82歳のパッチワーク作品も飾られ、居心地の良い空間づくりを工夫している。乾燥対策として濡れタオル干しにて対応している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲が良い利用者様同士で雑談したり、難聴の方や意思疎通が困難な利用者様はスタッフが間に入るなどしてコミュニケーションできる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで自宅で使用されていた家具や好みの洋服、本など使い慣れたものをそのまま使ってもらっている。	居室には入居者本人が以前から使用していた筆筒や調度品などが持ち込まれている。遺影に毎日水を供えたり、居室の掃除、趣味の写経など、入居者のペースで自由に過ごされている。家族写真や自ら制作した作品を飾るなど、居心地の良い居室づくりができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や自室にも名前プレートを貼り、通路には物を置かないようにして安全に移動できるようにしている。		